

### 第3回 関西広域産業ビジョン改訂委員会 議事要旨

1. 日 時：平成30年10月1日（月）13：00～15：00
2. 場 所：関西広域連合本部事務局 大会議室
3. 出席者：別紙出席者名簿のとおり
4. 議事概要
  - 事務局より、資料について説明。
  - 「関西広域産業ビジョン（改訂版）」骨子案について、意見交換。

【「はじめに」「Ⅰ．現状認識・課題」について】

《全体》

<委員>

- ・ ビジョン改訂の動機が見えないように感じる。「Ⅰ．現状認識・課題」で、ビジョン改訂に至った関西経済の現状・課題をクローズアップし、これまでの取組で弱かった部分を今後2040年に向けて取り組んでいく、といったようなメリハリが欲しい。今回の骨子案では、何かのインパクトを受けてビジョンを改訂した、という動的なストーリーが弱いように感じる。労働力不足やIoT社会の到来やグローバル化の流れで、キーワードは「生産性向上」ではないか。例えば、関西には中堅・中小企業が集積しているが、関西全体で、生産性向上に取り組み、行政や経済界も支援する。それによって労働力不足にも対応していく、というストーリーを示すことができれば、改訂の動機が見えてくるのではないか。
- ・ 現行ビジョンとどう違うのかを意識して記載することが必要ではないか。例えば、「現行ビジョン策定時は、ここまで労働力不足が進むとは考えていなかった。一方、労働力不足の影響を緩和する技術が急激に進むということも想定していなかった」といったような部分を強調してはどうか。また、需要面でいうと、2015年以降、インバウンドが急速に拡大したが、ビジョン策定時は、日本が観光立国になることは想定できなかった。現行ビジョン策定時から、需要面、供給面で大きな変化があったということが分かる記載にしてはどうか。
- ・ 全体を通して、平板な印象を受ける。
- ・ 一歩踏み込んで、関西の浮揚のための提案をするのが、広域産業ビジョンらしさではないか。

《関西経済の現状・課題について（1）人口の減少に伴う労働力不足》

<委員>

- ・ 「はじめに」の部分で、「IoT、AIなどの技術革新による第4次産業革命の進展」と記載されているが、「Ⅰ．現状認識・課題」に結びついていない。例えば、労働力不足について、AI技術の進展による労働の質の変化（業務内容や生産性の変化）が触れられていない。
- ・ 今後大きな課題になるであろう、労働力の国際化の影響があまり記載されていないので、「Ⅰ．現状認識・課題」に追記してもいいのではないか。
- ・ 外国人労働者について、人材確保・育成の観点からは避けて通れない問題かと考えるので、触れたほうがいいのではないか。

《関西経済の現状・課題について（2）好調なインバウンド》

<事務局>

- ・ 現行ビジョン策定時の想定を上回ってインバウンドが拡大しているため、「Ⅰ．現状認識・課題」に「好調なインバウンド」を追記している。このインバウンドをいかに関西経済に取り込めるかが重要と考えている。

#### <委員>

- ・「好調なインバウンド」とあるが、一種のブーム的なものもあるのではないか。長期的に見た場合、いつまでこの好調さが保つのか、関西だけではなく日本全体で見ても危惧されるところである。しかしながら、関西の持つ強みはインバウンド、観光の部分にあるので、観光産業としての生き残りや、今の好調さをブーム的なものにしない意識が必要。
- ・観光、インバウンドについて、確かに好調ではあるが、関西経済がインバウンド頼みになっていることに対する危機感がある。産業がしっかりしていないと、観光が不調となったときに大変なことになるのではないか。
- ・今回検討しているのは「産業ビジョン」であり、産業は、観光や防災と不可分な部分もあるかと思うが、あくまで産業振興の観点で記載すべきであると思うが、その辺はいかがか。例えば、災害に関しても、防災そのものの対策ではなくて、産業振興の視点で記載すべきではないか。
- ・「Ⅰ．現状認識、課題」には、防災や観光についても記載しても構わないと考える。

#### <事務局>

- ・インフラや災害対策そのものとなると、産業ビジョンで記載することは難しい。また、観光振興についても、基本は広域観光・文化・スポーツ振興局が所管すべきものであるが、観光と産業は親和性がある。産業の間接性をわきまえてビジョンに記載すべきと考えている。

### 《関西経済の現状・課題について（3）グローバル化の進展》

#### <委員>

- ・近年、アジアが経済成長を見せる中、アジアと比較すると日本・関西経済は停滞しているという構図かと思うが、グローバルな観点での危機感は記載していないのか。
- ・グローバル化の中で、日本全体が海外から周回遅れの状況。日本全体として、様々な国際的順位が下がってきているという現状に対する危機感について、もう少し記載があっていいのではないか。
- ・今後 20 年先を考えたときに、想定外な課題もあるだろうが、全体としてグローバル化・アジアというと、なんとなく日本からアジアに出て行くイメージを持ってしまい、日本が進出する側（上）で、アジアが進出される側（下）のように見えるが、今後、そうではなくなるだろう。これからは、アジア側からのアプローチにどう応えるか、が課題になるのではないか。また、今後は、アジアとの相互の対等な関係をどう作っていくかが課題になるのではないか。
- ・アジアとの関係性でいうと、ここ 10 年で、中国をはじめとするアジアへの財の輸出（電子部品等）、サービスの輸出（サービス貿易：インバウンド）の 2 つが関西経済を支えているという特徴に言及し、この 2 つの輸出が関西を救う、というような表現にしてはどうか。一方、「アジアへの財・サービスの輸出が関西を救う」としても、それに対するリスクシナリオはたくさんある。例えば米中間の貿易紛争や「マニファクチュアリング 2025（中国製造業発展のためのロードマップ）」が一つのキーワードであり、関西がそれをどう意識するのか。AI、IoT、Society5.0 などの記載はされているが、アジアの中で関西が成長していくときに、リスクをどう考えているのか、もう少し見える形で記載してもいいのではないか。

#### <事務局>

- ・将来的に国内市場の縮小が見込まれる中で、アジアをはじめとした海外にも目を向けないといけない、との趣旨で「Ⅰ．現状認識、課題」に記載している。
- ・事務局としては、アジアを捉える際、国内市場縮小に伴う外需の取り込みだけでなく、アジアとの関係性も考えていけないといけない、という認識はあるものの、そこまで言及することはできなかった。
- ・アジアの企業や、アジアの各都市との関係で、ただ海外進出するだけではない（進出の仕方も変わってくる）という部分については事務局でも認識している。

## 《関西経済の現状・課題について（4）頻発する自然災害》

### <事務局>

- ・ 現行ビジョンでは、災害に関して「付言」として記載しているが、改訂ビジョンでは、昨今、災害が頻発していることもあり、「Ⅰ．現状認識、課題」の一つとして記載している。

### <委員>

- ・ 改訂ビジョンでは、災害が頻発しているにも関わらず、関西にはレジリエント（柔軟に対応できる仕組み）がある、という形で発信していきたい。災害について、日本全体の記載となっているように思われるので、国内の他の地域と比べて、関西では災害の発生頻度や強度が異なっているということが分かるような記載としてはどうか。
- ・ 平板さから逃れるためには、インバウンドや自然災害と絡めた一歩踏み込んだ内容にする必要がある。
- ・ 今回検討しているのは「産業ビジョン」であり、産業は、観光や防災と不可分な部分もあるかと思うが、あくまで産業振興の観点で記載すべきであると思うが、その辺はいかがか。例えば、災害に関しても、防災そのものの対策ではなくて、産業振興の視点で記載すべきではないか。（再掲）
- ・ 「Ⅰ．現状認識、課題」には、防災や観光についても記載しても構わないと考える。（再掲）

### <事務局>

- ・ インフラや災害対策そのものとなると、産業ビジョンで記載することは難しい。また、観光振興についても、基本は広域観光・文化・スポーツ振興局が所管すべきものであるが、観光と産業は親和性がある。産業の間接性をわきまえてビジョンに記載すべきと考えている。（再掲）

## 【「Ⅱ．関西が目指す将来像」について】

### 《将来像 1「世界の中で輝き、日本の未来を牽引する関西」》

- ・ 前回の委員会で、今後もアジアだけを見ていいのか、という議論が出ていたが、アジアとの関係は、放っておいても（関西広域連合として将来像に示さなくても）進んでいくのではないか。産業ビジョンが 20 年後を見通すものであるならば、「アジアの次」を目指すべき。「日本とアジアの結節点、そして世界へ」のような、もう一言、将来への展望がわかる表現を追記してほしい。20 年前、九州が「アジアの中の九州」と言っていたので、今頃になって、関西がまだ「アジアの結節点」と言っているのか。
- ・ 台風 21 号の影響で関空が利用できなくなり、中国・韓国の旅行者は関西にはまだ戻っていないが、欧米人が意外とたくさん関西に来ているということが分かった。気付かないうちに、アジア以外の地域の人も関西に来ている。楽しみ方やお金の使い方は、アジア地域の人とは異なっているので、これまでと同じような対応はできない（アジア地域の人とは異なる市場性を有している）。なんとなく、インバウンドというとアジアを向いてしまうが、その先（新たな市場）を見据えた議論が必要ではないか。欧米人は、中国人、韓国人とは異なる視点で関西を評価しているので、そこを汲み取りながら次の戦略に結び付けてはどうか。
- ・ 1 つ目の将来像（世界の中で輝き、日本の未来を牽引する関西）はまだアジアに引きずられているので、2 つに分けて、「アジア」と「その先（ポスト・アジアの地域）」にしてはどうか。そうすると相当インパクトがあると思う。
- ・ まだアジアでの取組みも出来ていない中で、その先の地域まで将来像で記載するのはいかがなものか。インバウンドに関する記載の中で、工夫できるのではないか。例えば、欧米やオーストラリアからの旅行者は、長期滞在の傾向がある。2015 年と、2017 年・2018 年のインバウンドは様相が異なっている（財の消費に加え、コト消費が伸びてきている）。
- ・ 財の輸出については、まずはアジアで輝いて、アジアだけに依存するのではなく、ヨーロッパなどアジア以外の地域に目を向ける、といった形でどうか。

- ・ 骨子案を見る限り、アジアだけとなっているように見受けられるので、それだけでいいのか、という思いがある。インバウンドの部分で記載するというのも一つの手法。産業政策の中で、欧米の資本との関係は書きづらい（欧米の市場の動向は見通しにくい）部分があるのはわかるが、このビジョンは、20 年後の将来を目指すものなので、どこかで、アジア以外の地域にも目を向けていることがわかるよう記載すべきと考える。
- ・ 北海道のスキー場に、海外資本が進出し、ホテルも客も店も外国人であふれている様子を見ると、一過性の中国人（日本に旅行できて爆買いして帰る）よりも影響は大きいのではないかと思う。インバウンドの部分だけでいいので、欧米への対応を記載し、欧米にとっても魅力ある地域にするという視点で課題や将来像を記載していただきたい。
- ・ 海外プロモーション事業について、アジア地域で実施しているが、構成府県市でもアジアでの取組みは進んでいるのではないか。府県市単独では取組みが難しいエリアに取り組んでいくのが関西広域連合の意義ではないか。例えば、南米・アフリカなど、新たな市場へ関心を持っている企業へのセミナーなど、次の時代を見据えて、府県市単独では難しいエリアに繋がるような取組みをしていってはどうか。JETRO と連携した取組みも視野に入れてはどうか。
- ・ 戦略にも関連するが、「イノベーション」をキーワードの一つにすると、必ずしもアジアに拘る必要はない。隣接性という点では確かにアジアの影響力は大きいですが、イノベーションはアジア以外の地域も含め国際競争となっているので、長期的に見て、関西の独自性に踏み出してもいいのではないかと考えている。アフリカ、南米、中央ヨーロッパなど、どの地域とは指定しないが、ポスト・アジアが視野に入っていることがわかるような記載にしていきたい。

#### <事務局>

- ・ 何か一つだけに頼るのは危険という認識。確かにアジア頼みではリスクが高いので、リスク回避も含めて手を打つことがわかるような記載としたい。

#### 《将来像 2「多様な人々が活躍・共生できる関西」》

##### <委員>

- ・ 2 つ目の将来像「多様な人々が活躍・共生できる関西」について、「多様な人々」の例示として女性、高齢者が挙げられているが、外国人は入っていないのか。「共生」という表現で、「多文化共生」をイメージできるので、外国人が入っていることは読み取れるが、逆に「共生」とあるのに外国人が例示されていないことに違和感がある。

##### <事務局>

- ・ 外国人も「など」のうちに含んでおり、「共生」と記載することで外国人をイメージできるようにしている。直接「外国人」と記載するかどうか検討中である。
- ・ 外国人材の受入について、国の制度改正がどこまで進むのか不透明な部分もあり、少し控えめな記載内容としている。

##### <委員>

- ・ 「多様な人々が活躍・共生」という視点は大切だと考える。ただ、この表現では、労働力不足に対応し、社会的な安定性を保つ、という意味で捉えられる。「産業ビジョン」の観点からは、多様な人材が集まることでネットワークが構築され、イノベーションが創出されることで、世界で輝く関西（将来像 1）となる、というプラットフォームの役割を強調したい。そういう観点から、外国人材はビジョンに記載しておいたほうがいいのではないか。もう少し「産業」の観点到して記載してはいかがか。
- ・ 空間経済学でも論じられているが、同じような考えを持った人が集まっていれば、生産性は上がらない。異なる多様な考えを持った人が集まることで、1 人あたりの生産性を高める、とされている。そういった意味では、外国人について明記してもいいのではないか。

- ・事務局が慎重になるのは、政府の外国人労働者の受入にかかる方針が不明確な中で、地方自治体としての考え方は示しにくいと思う。関西の地方圏に外国の方が永住している。関西は、外国人と親和性のある地域、共生できる地域というイメージがあってもいいと考える。

#### <事務局>

- ・今後のアジアとの関係もあるが、関西にイノベティブな人材が来ていただきたい。また、「多様な人々」の中には、地域に根ざした、地域で活躍する人材も含まれている。グローバルだけではなく、地域の産業を支えていい循環を生める、というイメージで記載している。

#### <委員>

- ・アジアからのアプローチにどう応えるか、という指摘に対応するような部分を、「Ⅰ．現状認識、課題」で強調して、2 つ目の将来像「多様な人々が活躍・共生できる関西」に繋げてはどうか。

#### 《目標》

- ・目標値について、GRP のシェアを掲げるのもいいが、もう 1 歩踏み出してインバウンドの比率を掲げるのはどうか。関西経済を持ち上げている要因として、財・サービスの輸出があるので、その目標指標があってもいいのではないか。

#### 【「Ⅲ．広域課題に対応する「関西経済活性化戦略」について】

#### <委員>

- ・一般的な表現となっており、あまり特徴がないように見受けられるが、具体的にどういう取組みをするのか。具体的に記載できる部分は、具体的な記載をお願いしたい。
- ・全体的に、もう少し踏み込んだ表現にしていればと考える。具体的な事例を書いて、1 つくらい風呂敷を広げるような記載があってもいいと考える。
- ・本文について、もう少し具体的で分かりやすい表現に修正してはどうか。公設試をしっかり活用することで中小企業の生産性を向上させる、ということが分かる記載にいただきたい。
- ・「はじめに」で SDGs に関する記載があるが、戦略では具体的な記載がされていないので、具体的にイメージできる記載をするべき。アジアだけではなくグローバルで考えたときに、グローバルと地域を結びつけるには、SDGs について自治体を地域間でうまくつなぐことでイノベーションの創出につなげる、というイメージを出したほうがいいのではないか。地域の連携ができるメリットもあるので、SDGs の観点を入れ込んでいただければと考える。
- ・改訂ビジョンには、万博誘致が大きく関わってくる。誘致に成功したら、大きくビジョンの記載内容が変わるのではないか。ただ、万博が誘致できても、できなくても、SDGs に掲げる 17 の目標の中で、産業分野で取り組みやすいものに取り組み、その延長線上に万博が目指すものがあり、万博を誘致できなくても SDGs の取組内容には意味がある、という記載にすれば、万博誘致の結果にあまり影響を受けないのではないか。
- ・万博と SDGs をクロスさせて記載すると、関西らしい特徴が出るうえ、厚みが増すのではないか。「どこでもある計画」ではなく、「関西の計画」であることを明示化する上でも万博の話は重要。
- ・それぞれの戦略で目玉の事業があると思うが、例えば、戦略 1（関西の優位性を活かしたイノベーション創出環境・機能の強化）のデータサイエンスについて、関西健康・医療創生会議でもデータサイエンスの人材育成の取組みをしている。実際にこれまでやってきた取組み、今やっている取組みを発展させるような記載を加えてはどうか。
- ・和歌山県のデータ利活用センターについて記載いただいているが、地域の中堅・中小企業が今後データを活用することで、イノベーションを起こす（データからニーズを読み取り、付加価値の高い財・サービスを生み出すことで顧客を獲得する）というイメージを書き込んでもらったらわかりやすいのではないか。データサイエンスの時代なので、中小企業がそ

れをうまく使えるような支援が必要である。

- ・ 悩ましいところであるが、具体的なイメージをできるものの提案となると、例えば、域内の公立大学を連立として、関西の大学の研究開発力を強化する、といったことを書けないか。また、都市環境であれば、イノベティブな環境として、エンリコ・モレッティが言っているクラスター、エコビジネス、労働力の多様性（雇用とイノベーションの都市経済学）からアプローチをかける提案があってもいいかもしれない。
- ・ イノベーション創出について、具体の成功事例がないということは、至っていないことの証拠であろうと思う。世界の成功事例と比べて、関西では何が足りないか、あるいは準備が出来てきているのか、そのあたりの総括が必要。研究機関が集積していること、イノベーション創出環境が整っていることとは別の話である。関西広域連合が力を入れて取り組んできた分野について、取り組んだ部分の総括をすべき。
- ・ イノベーション創出に関して、ハンドブックのようなものが出版されたり、世界中でイノベーション創出に関する論文も発表されたりしているが、イノベーションに関して、成功事例があまりない。それにもかかわらず、戦略として位置づけられていることは、挑戦的であり、イノベーション創出について議論することはいいと思う。さらに、それを一歩進めて、コミュニティ作り、ネットワーク作りをすることで、関西らしい展望が開けたらと考える。これまでの成功例、取組みに加えて、次に何をやるかが分かるような記載にしてはどうか。
- ・ イノベーション創出の条件として、コミュニティやネットワークが重要であるが、日本は海外に比べて弱いとされていた。関西広域連合が果たせる役割として、ネットワーク作りがあるのではないかと考える。ネットワーク作りも、イノベーション創出環境の整備になるのでは。そういう（ネットワーク作り）視点から、何か取り組めることがあるのではないか。
- ・ オープンイノベーションの先進地域であるシリコンバレーと深センの取組みに学び、大阪でのイノベーション・エコシステムを考えるシンポジウムで、コミュニティが足りないという話が出ていた。シリコンバレーから日本に帰ってきた人がいるので、そういう方を組成させる取組みが必要ではないか、という話がでている。ニーズがあれば、大阪から関西に広げていくという手もありではないか。
- ・ 大阪での試みという事例で取り上げて、他府県市で参考にさせていただくのもいいのではないか。
- ・ エネルギー分野で、イノベーションの創出に繋がる環境が整っている、と記載されているが、何をもちて整っているといえるのか。イノベーション創出環境・機能の強化とは、具体的にどういうイメージで捉えたらいいのか。事業内容を見ても、その事業がイノベーションに繋がっているのかどうか、疑問。少なくとも、関西が企業や研究機関、研究者にとって、居心地のいい場所でなければならないことは確かである。居心地のいい環境づくり（ハードではなくソフトの部分で整備）をする、という姿勢を打ち出してもいいのではないか。

#### <事務局>

- ・ これまで、ライフ・グリーン分野に重点的に取り組んできたこともあり、国内では、関西はライフ・グリーン分野で他地域よりも優位性があるということでこうした記載にしているが、整っている、とまでいえるのかどうか。何が不足しているのか、課題が抽出できていない。不足している部分について、次にどういう取組みをするか、何を深化させていくか、見えないというところをご指摘のとおりである。
- ・ 関西経済連合会からも、公設試の連携強化（関西版フラウンホーファー）に取り組むべきという提案をいただいております、「連携を深める」という表現にしている。単に連携を深めるのではなく、そこから何を生み出すのかをきっちり記載すると、目指すところがおのずと分かるのではと考えている。いきなり、「一体的に取り組む」と記載することまでは書きづらいが、戦略の中で、これまでやってきたことをどう深化するのか書いて、「関西らしさ」をイメージした表現に修正したい。